

令和4（2022）年度
自己点検・評価報告書
（抜粋）

鎌倉女子大学 中等部・高等部

第2章 中・高等部 自己点検・評価

1. 教育目標

1-①	・建学の精神に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教職員及び生徒が学校教育目標を共有できるようにする。 ②学校教育目標、学校運営目標の具現化を図るために、校務分掌の各部署が重要経営指標（KPI）を設定し、目標の達成度を意識した学校運営を行う。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	【中・高共通】 ①建学の精神の実現のために「自己を高める豊かな人間性を育成する」「自立して活躍できる確かな学力を育成する」「世界で通用する語学力と国際性を育成する。」「持続可能な社会に参画する力を育成する。」の4つの学校教育目標を令和元（2019）年に設定した。それから4年間、学校説明会で建学の精神とともに毎回紹介してきた。 ②校務委員会の各委員会が重要経営指標（KPI）を令和2（2020）年に設定し、目標の達成度を数値で測ることで、取り組みを客観的に評価する姿勢を教職員が持てるようになった。一部の組織では、KPIの見直しも行っている。
今後の課題	【中・高共通】 ①始業式や終業式で実施する部長講話において、生徒に対して学校教育目標について触れる機会を増やすようにする。 ②生徒アンケート等を実施して、KPIの見直しや拡充に取り組む。生徒の実態を反映させられるようなKPIの設定を行う。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教職員と生徒が学校教育目標を共有できるようにする。 ②学校教育目標と学校運営目標の具現化を図る。校務分掌の各部署が重要経営指標（KPI）を設定し、目標の達成度を意識した学校運営を行う。

1-②	・中等部・高等部の状況を踏まえ、重点化された中・短期の目標が定められているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校教育の重点目標として、「21世紀型能力の資質能力を育成する」（知）と「豊かな人間性を育成する」（心）を設定する。 ②学校運営の重点目標として、「選ばれる学校になる」と「効率的な組織運営に

	取り組む」を設定する。 ③ユネスコスクールへの加盟を目指して、ESD（持続可能な開発のための教育）と国際理解教育に計画的に取り組む。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①「学力向上プラン」「英語・国際理解教育プログラム」「ESDプログラム」「キャリア教育プログラム」に基づき各事業の実施計画や各学習プログラムを作成し、「21世紀型能力の資質能力を育成する」ことを概ね達成することができた。また、「心の教育プラン」に基づき各事業の実施計画を立案・実施し、「豊かな人間性を育成する」ことを概ね達成することができた。 ②「選ばれる学校になる」と「効率的な組織運営に取り組む」を達成するために、「広報活動」「校内組織」「学校評価」「校務の効率化」「研究研修活動」の各プランに含まれる活動を実施することができた。 ③ユネスコ本部（パリ）の審査を経て、ユネスコスクールの認証となった。
今後の課題	【中・高共通】 ①教育の重点目標と重点取組分野は、中期計画に合わせて令和6（2024）年までは継続していきたい。 ②学校運営の重点目標を達成させるための活動内容を見直す。 ③ユネスコスクールとして、ESDと国際理解教育を実施、発信する。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校教育の重点目標として、「21世紀型能力の資質能力を育成する」（知）と「豊かな人間性を育成する」（心）を設定する。 ②学校運営の重点目標として、「選ばれる学校になる」と「効率的な組織運営に取り組む」を設定する。 ③ESD（持続可能な開発のための教育）と国際理解教育に計画的に取り組む。

2. 教育課程

2-①	・教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。			
2022年度の取組目標	【中・高共通】 ①学力向上を目指した教科のカリキュラム・マネジメントに取り組む。 ②週休2日制に合わせた年間行事予定、日課表を編成し、実施する。 ③教科等横断的な学習として「心の教育プラン」「学力向上プラン」「英語教育・国際理解教育プログラム」「ESDプログラム」「キャリア教育プログラム」を編成し、実施する。 【中等部】 ①教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていく。 【高等部】 ①令和4（2022）年度完全実施の高等部教育課程を確実に実施する。			
【中等部】達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①学校教育目標と学習の手引きや年間学習指導計画表を整合させることにより、組織として総合的に学力向上に取り組むことができた。職員研修や模擬試験分析会を通して学力向上に取り組むことができた。管理職や外部有識者による授業見学をはじめ、教員同士による相互参観、生徒・保護者からの授業アンケートを利用することで、指導技術の向上を図ることができた。 ②週休2日間に合わせた年間行事、日課表を編成することができた。 ③学校教育目標を具現化するための教科等横断的な学習として、「心の教育プラン」「学力向上プラン」「英語教育・国際理解教育プログラム」「ESDプログラム」「キャリア教育プログラム」を策定のうえ、計画どおり実施した。教科等横断的な学習の成果が認められ、ユネスコが主催するユネスコスクールに認定された。 【中等部】 ①教育課程の実施に必要な人的または物的な体制の確保を行い、実施することができた。 【高等部】 ①令和4（2022）年度完全実施の学習指導要領に基づく教育課程の編成に伴い、教職員への周知及び教務規定の改定を行った。			
今後の課題	【中・高共通】 ①学力向上を目指した教科の教育課程の運営・改善に継続的に取り組む。 【中等部】 ①教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていく。 【高等部】 ①教育課程の実施に必要な人的または物的な体制の確保を行っていく。			

【中等部】 資料	【資料2-1】授業時数
【高等部】 資料	【資料2-1】教育課程
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学力向上を目指した教科のカリキュラム・マネジメントに取り組む。 ②週休2日制に合わせた年間行事予定、日課表を編成し、実施する。 ③教科等横断的な学習として、「心の教育プラン」「学力向上プラン」「英語教育・国際理解教育プログラム」「ESDプログラム」「キャリア教育プログラム」を編成し実施する。 【中等部】 ①教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る。 【高等部】 ①教育課程の実施に必要な人的または物的な体制の確保を行う。

2-②	・教育課程の実施に必要な、教科等の年間指導計画や週案などが適切に作成されているとともに、教科等の指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか。			
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教科会を定期的に開催し、教科の指導方針や教材・教具、指導方法等に関する情報の共有を行い、教科としての指導体制をいっそう整備する。 ②学習の手引きを作成し、活用することで授業の充実を目指す。 ③新型コロナウイルス感染症対策及び感染拡大による活動内容や時間の制約を考慮のうえ、バランスの良い授業時数の配当を行い、各授業進度の管理を行う。 ④コロナ禍における、特別活動、総合的な学習の時間、総合的な探求の時間、道徳の年間指導計画を学習指導委員会が作成し、それに基づき、各学年が学習指導案や実施計画を作成する。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①教科内での情報共有を適切に行うことができた。 ②シラバスを生徒各自のタブレットに導入し、いつでも活用することができた。 ③教科科目配置バランスを考慮した時間割が作成されるとともに、すべての教員が進度及び時間数の管理を行い、授業を進行することができた。 ④各学年において実施計画が作成され、適宜適切に運営することができた。			
今後の課題	【中・高共通】 ①教科内での情報共有に努め、教科指導を充実させる。 ②シラバスを活用し、授業内容を充実させる。 ③バランスの良い授業時数の配当を行い、一層の授業内容の工夫等により、授業			

	進度を確保する。
【中等部】 資料	【資料2-1】授業時数 【資料2-2】実授業時数 【資料2-3】教科別教員数と授業時数 【資料2-4】教員一人当たりの授業時数
【高等部】 資料	【資料2-1】教育課程 【資料2-2】実授業時数 【資料2-3】教科別教員数と授業時数 【資料2-4】教員一人当たりの授業時数
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教科会を定期的開催し、教科の指導方針や教材・教具、指導方法等に関する一層の情報共有を行うことで、教科としての指導体制を確立する。 ②学習の手引きを作成、活用することにより、授業をより一層充実させる。 ③バランスの良い授業時数の配当を行い、各授業進度の管理を行う。 ④特別活動、総合的な学習の時間、総合的な探求の時間、道徳の年間指導計画を作成し、それに基づき、各学年が学習指導案や実施計画を作成する。

2-③	・生徒の学習について観点別学習状況の評価や評定などの基準が設定されているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①観点別学習状況の評価の観点の付け方、評価のために収集した様々な資料のウエイト付けを、教科内で点検する。 ②効率的かつ正確な評価・評定を出すために、校務システムを活用する。 ③定期試験の問題の適正化を図るために、国語、社会、数学、理科、英語では、定期テストの目標とする平均点を60±5点の達成を50%以上にする。 【中等部】 ①特別な教科道德や総合的な学習の時間の指導要録の文章記述などを充実させるために、生徒の学習の振り返りを活用し、各学年で書き方や評価の視点などを共有する。 【高等部】 ①総合的な探究の時間の指導要録の文章記述などを充実させるために、生徒の学習の振り返りを活用し、各学年で書き方や評価の視点などを共有するとともに、学年間で情報を交換する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標対 する取組 内容と成果)	【中・高共通】 ①観点別学習状況の評価については、教務規定に則って評価するが、学年末に行われる教科会にて、成績の妥当性を確認している。 ②評価・評定を算出するに際し、教員の誤入力に伴い成績の訂正をすることが生じたため、教科内での相互確認を徹底する。 ③中等部での平均点は、国際教養コースで目標達成が37%で、点数の超過が60%

	で、不足3%、プログレスコースで目標達成が50%で、点数の超過が15%で、不足が35%であった。中等部での目標達成は平均をとると44%であった。高等部では、国際教養コースで目標達成が34%で、点数の超過が47%で、不足18%、プログレスコースで目標達成が40%で、点数の超過が20%で、不足が20%であった。高等部での目標達成は平均をとると37%であった。国際教養コースとプログレスコースを比較すると国際教養コースのほうが平均点の超過の割合が高く、試験問題が生徒のレベルよりも優しいことがうかがえる。 【中等部】 ①道徳や総合的な学習の時間における学習指導要録の文章記述などを充実させるために、中等部全体で生徒自身が記入するリフレクションシートと、記入結果を自動的に評価文章に反映できるファイルを作成し、評価の視点を共有することができた。 【高等部】 ①1つ上の学年に前年度の評価方法を提示してもらい、本年度の文章記述による評価に生かした。
今後の課題	【中・高共通】 ①教科内で、観点ごとの評価の規準と基準を考える。 ②教科内で成績確認のより良い方法を考える。 ③国際教養コースは成績が良いため、定期試験の目標平均点を高くしてもいいと思われる。また、プログレスコースは中・高とも平均点が54点以下の割合が3分の1を超えており、試験問題のレベルのほか学力不足がうかがえるため、改善をしていく必要がある。 【中等部】 ①コロナ禍で中止されていた道徳や総合的な学習の時間に関わる行事や学習活動が少しずつ動き出したため、評価項目や内容の修正などを加えることをはじめ、評価システムのブラッシュアップを図ることが必要となる。 【高等部】 ①SDGsの学習として行う鎌倉プロジェクトは、前年度の取り組みが大いに参考になるため、これまで以上に情報交換を図っていく。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教務規定と照らし合わせて観点別学習状況の評価を行うとともに、教科会で点検する。 ②成績処理等の効率化を図るため、校務システムを活用する。 ③定期試験問題の適正化を図るために、国語、社会、数学、理科、英語では、定期試験の目標とする平均点を60±5点の達成を50%以上にする。 【中等部】 ①特別な教科道徳や総合的な学習の時間の学習指導要録の文章記述などを充実させるために、生徒の学習の振り返りを活用し、各学年で書き方や評価の視点などを共有する。 【高等部】 ①現在の取り組みをより充実させるため、各学年の担当者間で情報共有を図る。

3. 学習指導

3-①	・学習指導要領や学則にのっとり、中等部・高等部全体として、生徒の発達段階や学力、能力に即した指導が適切に行われているか。また、生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた指導が行われ、PDCAサイクルに基づいて適切に指導が改善されているか。			
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①模擬試験等により生徒の学力の状況を把握し、学力向上のために生徒を指導するとともに、指導の工夫・改善に取り組む。 ②各種調査により生徒の学習の状況を把握し、学習習慣の定着のために生徒を指導するとともに、保護者と情報を共有するために、年3回以上、二者面談・三者面談を実施する。 ③本年度も早い段階で新体力テストを実施し、前年度と比較することで、個々に課題を持ち授業に臨ませる。 ④生徒たちが英検を受ける意義を理解して、目標意識を高めていくために、英語科で年度初めに、英検についての説明会を設定する。 ⑤各学期、授業評価を実施するとともに、教員間で指導の工夫を共有し、改善に取り組む。 【中等部】 ①英語検定では学年の目標級達成のため、中等部共通で「単語コンテスト」を実施し、語彙力を伸ばす指導を行う。 【高等部】 ①英語検定対策として、英語の授業内で対策を取り入れ、生徒が継続的に学習を進められる環境づくりと指導を行う。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①多くの教員の模擬試験の成績に対する意識が高まるとともに、模擬試験の結果を意識することで、授業での工夫・改善がみられた。 ②学習習慣の定着のため、学力向上委員会と進路指導委員会主導のもと各担任が生徒に日々の学習記録を入力させ、週ごとに集計を共有した。学習実態調査等の結果も併用しながら、日常での学習への取り組み方について三者で話し合った。面談は全学年最低3回、更に学年の実態や個別の必要に応じて適宜実施できた。 ③年度開始後、新体力テストの実施・自己評価を行い、苦手を把握して目標を持って授業に臨ませることができた。 ④学校会場にすることで受検しやすい環境を提供できた。各自の学年目標級到達にむけて、積極的に取り組む姿勢が見られ、受験者数の増加につながった。 ⑤各学期とも、生徒による授業評価を実施し、授業担当者による指導の工夫と改善に取り組んだ。 【中等部】 ①4月と7月に中等部共通の「単語コンテスト」を実施し、英語科全体で結果を共			

	有した。生徒の単語学習意欲を向上させることができた。 【高等部】 ①授業内で英検教材を用いて英検問題演習を行った。生徒の英検に対する意欲・関心を高めるとともに、試験問題に対応する力をつけることができた。
今後の課題	【中・高共通】 ①中等部では、C・DからBへと成績を向上させ、B以上の数を増加させる。高等部では、全統模試で偏差値50以上の人数を増加させる。そのための工夫・改善方法を明確にする。 ②前年度よりも学習記録の入力習慣が定着したが、担任に促されて入力している生徒もまだ多いこと、入力の目的を理解できていない生徒もいることから、学習自体の目的意識を啓発する必要がある。 ③テスト項目の8観点においてバランスの良い運動技能が身に付くよう、多くの単元を授業に取り入れる。 ④結果を分析することで、生徒の英語の4技能の習得状況を把握し、授業改善や講習などに取り入れていくべき内容を明確にする。 ⑤授業評価の観点の見直しを行い、教員の指導力の改善に役立てる。 【中等部】 ①取り組み初年度のためまだまだ生徒の取り組みに改善の余地がある。単語コンテストに対する生徒の意欲・関心をより一層高める必要がある。 【高等部】 ①授業内で英検の教材の使用法については、従来の教材とのバランス等、教員間でノウハウを共有し、指導法の改善をしていく必要がある。
【中等部】 資料	【資料3-1】 使用教科書 【資料3-2】 実用英語技能検定 【資料3-3】 日本漢字能力検定 【資料3-4】 実用数学技能検定
【高等部】 資料	【資料3-1】 使用教科書 【資料3-2】 実用英語技能検定 【資料3-3】 日本漢字能力検定 【資料3-4】 実用数学技能検定
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①模擬試験等を利用して生徒の学力を把握し、学力向上のために指導の工夫・改善に取り組む。 ②入力習慣の更なる徹底。時間プロデュース力の育成。 ③早い段階で新体力テストを実施し、前年度と比較することで個々に課題を持って授業に臨ませる。 ④生徒が英検を受ける意義を理解し、目標意識を高めていくために、次年度も英語科で年度初めに英検についての説明会を設定する。 ⑤ 各学期、生徒による授業評価を実施し、指導の工夫を共有し改善に取り組む。 【中等部】 ①単語コンテストを継続して開催し、定番の取り組みとして生徒に周知徹底を図ることでより一層の学習意欲の向上を図る。 【高等部】 ①英検教材を用いた指導法のノウハウを蓄積し、より洗練された指導を目指す。

3-②	・体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教科等横断的な学習プログラムのなかで教員が実際にアクティブラーニング型の授業に取り組む。 ②研修後にリスニングの力や英語を使って表現する力（ライティング、スピーキング）を高め、模擬試験や英語検定の結果につなげていく。 ③引き続き新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、年間2回、立居振舞講座が実施できるようにする。 ④コミュニケーション講座とエンカウンター講座については、1回目の講座に担任団に参加してもらい、運営方法や実施方法を研修してもらう。 ⑤研修で学んだ内容の学校の授業内における活用の方法を研究する。 ⑥「ESDプログラム」で参加型学習、体験型学習、課題解決学習を実施する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	【中・高共通】 ①学習指導委員会が実施している「授業公開」により、アクティブラーニング型の授業に取り組む場面が本年度も増加した。 ②英語の授業指導法の研修を通じて学んだノウハウを生かしながら、生徒が主体的に考え活動し、表現するスタイルの授業を実践できた。 ③立居振舞講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら、1学期、2学期の2回、開催することができた。三密を避け、手指消毒を行ったうえで安全に実施することができ、「Classi」を使用したアンケートでは回答した生徒のうち1学期99%、2学期96%が「役に立った」と回答した。 ④コミュニケーション講座、エンカウンター講座は2回実施し、2回とも外部講師により実施した。 ⑤英語研修の演習プログラムを、授業に生かすことができた。 ⑥ESDプログラムについて、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行により、ディスカッション等が不十分の部分があった。
今後の課題	【中・高共通】 ①アクティブラーニング型授業に取り組む場を増やす。 ②英語指導法について更なる研鑽を積み、より効果的な指導法を確立していく。 ③立居振舞講座など外部講師が来校したり、生徒が校外で活動したりする場合は、引き続き新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行い、生徒が安心して参加できるような環境を整える。 ④コミュニケーション講座とエンカウンター講座は、担任団やその他の教員も可能な限り参加し、運営方法、実施の意義についての研修も検討する。 ⑤生徒が自分の英語の力にあったプログラムを体験できるようにする。 ⑥意見交換の方法については、新しい形態を考える必要がある。また、ESDプログラムで生徒が学んだ内容を、日常場面で意識できているかどうかのチェック

	クが正しくできるよう検討する。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教科等横断的な学習プログラムのなかで教員が実際にアクティブラーニング型の授業に取り組む。 ②英語指導法の研修を継続し、より効果的な指導法の探求を行い、指導法の確立を目指す。 ③外部講師を招いて英語集中研修、立居振舞講座、コミュニケーション講座等を実施する。 ④英語・国際理解教育プログラムでの体験学習を実施する。 ⑤ESDプログラムにて参加型学習、体験型学習、課題解決学習を実施する。

3-③	・発問、板書、指名など、各教員の指導性が各教科の授業において適切に発揮されているか。			
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①「知識・技能」の定着と、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業方法に取り組む。 ②授業中の「説明」「指示」「発問」「評価」といった言語コミュニケーションスキルを向上させる。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①電子黒板とiPadの活用により、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業へ転換が定着した。 ②年に2回の公開授業期間中に各教員が相互の授業を見学し、レポートで改善点を指摘しあうなど、言語コミュニケーションスキルを向上させる取り組みを行った。			
今後の課題	【中・高共通】 ①生徒の学力向上を目指し、充実した授業公開を行うことで授業力向上に取り組む。 ②授業者として必要な指導スキルを自己研鑽とともに各自が向上させる。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①「知識・技能」の定着とともに、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業に取り組む。 ②授業における「説明」「指示」「発問」「評価」などの言語コミュニケーションスキルを向上させる。			

3-④	・個別指導や習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導が適切に行われているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①発展的な学習として、国際教養コースの全生徒は毎月開催される土曜講習に参加する。プログレスコースは希望生徒が参加する。 ②夏期講習と冬期講習を実施する。 ③学力不振の生徒や希望した生徒に対して、適宜個別指導を実施し、取り組むべき学習をアドバイスする。 【中等部】 ①夏期講習と冬期講習について、国際教養コース、プログレスコースいずれも必修とする。 【高等部】 ①予備校主催の夏期講習を実施し、大学入試に向けた発展的な学習を実施する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①土曜講習については、国際教養コースの生徒は必修、プログレスコースの生徒は希望制として実施した。 ②夏期講習、冬期講習については、国際教養コース向けの講座を開講し、プログレスコース向けの英検対策講座を開講するなど、様々な種類の講座を設定した。 ③成績不振の生徒や授業の内容理解が十分でない生徒に対して、各教科担当で休日に補習を行うとともに、課題や個別質問対応を行った。 【中等部】 ①夏期講習と冬期講習を必修で実施し、習熟度授業などを交えて基礎から発展までの内容を指導した。 【高等部】 ①予備校主催の夏期講習を実施し、大学入試に向けた発展的な学習を実施した。
今後の課題	【中・高共通】 ①土曜講習の授業内容の充実を図る。 ②個別のフォローについて、教科で取り組める体制を目指す。 【中等部】 ①土曜講習について、プログレスコースにも積極的な参加を促す。 【高等部】 ①予備校主催の夏期講習について、プログレスコースにも積極的な参加を促す。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①土曜講習は発展的な学習として位置づけ、国際教養コースは必修、プログレス

	コースは希望制として実施する。 ②夏期講習と冬期講習を実施する。 ③学力不振の生徒や希望した生徒に対して適宜、個別指導を実施する。 【中等部】 ①夏期講習と冬期講習は、国際教養コースとプログレスコースいずれも必修とする。 【高等部】 ①予備校主催の夏期講習を実施し、大学入試に向けた発展的な学習を実施する。
--	--

3-⑤	・チーム・ティーチング指導などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①理科の実験・観察においては、安全を第一に教科担当の他に理科助手がつき、チーム・ティーチングで実験・観察指導にあたる。 ②他の英語の授業で学習した内容が、英会話の授業で実践的な練習となるよう、関連性を持たせていく方法を検討する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①理科助手が補佐として、すべての実験・観察の時間に原則として加わり、安全に配慮しつつ、実験・観察等の授業を行った。 ②授業ではネイティブの教員が中心に進めていく形を取りながらも、授業担当者が生徒の理解を把握し、時にはネイティブの教員に助言を与え、英検関係など他の英語の授業で学習した内容と関連付けた授業を行うことができた。
今後の課題	【中・高共通】 ①本年度の態勢が機能しており、引き続き現状を維持した取り組みを行う。 ②チーム・ティーチングで使用する教材の効果的な扱い方や英検など他の英語の授業との関連付けを教科会で研究する。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①理科の実験・観察においては、安全を第一に教科担当の他に理科助手がつき、チーム・ティーチングで実験・観察指導にあたる。 ②英検など他の英語の授業で学習した内容と英会話の授業とを関連付け、英会話の授業がより一層実践的な練習の場となる方法を検討する。

3-⑥	・視聴覚教材や教育機器、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業が行われているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①担当者会で密に連絡を取り、情報教育の推進と情報機器の管理・運用に組織的に取り組む。 ②動画コンテンツを精査し、生徒の学び直しや授業の予習・復習、各種検定の対策に取り組む。 ③各教員のICT活用指導力の向上のために、電子黒板やタブレット型端末等のICT機器の効果的な活用を推進する。 ④臨時休業に備えて、全教員がオンライン授業を行える体制を整えるように検討する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①ICTルーム、情報処理室における情報機器の管理・運用に組織的に取り組んだ。 ②タブレット型端末のマルチメディア機能や電子黒板を活用することによって、画像や動画、音声等が感覚に訴え、興味・関心や意欲を高める授業が行えた。 ③電子黒板やタブレット型端末を利用することで、抽象的な概念や思考の過程などを可視化することで理解の促進につなげることができた。 ④臨時休業に備えて、タブレット型端末にアプリの準備をした。
今後の課題	【中・高共通】 ①引き続き、担当者会で情報機器の管理・運用に組織的に取り組む。 ②動画コンテンツの精査を行い、より良いものがないか検討していく。 ③全教員がICT機器を効果的に活用ができるように検討していく。 ④今後も、臨時休業に備えて検討していく。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①担当者会で密に連絡を取り、情報教育の推進と情報機器の管理・運用に組織的に取り組む。 ②動画コンテンツを精査し、生徒の学び直しや授業の予習・復習、各種検定の対策に取り組む。 ③各教員のICT活用指導力の向上のために、電子黒板やタブレット型端末等のICT機器の効果的な活用を推進する。 ④臨時休業に備えて、全教員がオンライン授業を行える体制を整えるように検討する。

3-⑦	・学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進に取り組んでいるか。
-----	---------------------------------

2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①図書館資料の整備とデータ再構築を行う。 ②新1年生にオリエンテーション、図書館ガイダンスを行う。 【中等部】 ①図書館に興味を持たせ、利用を増やす。 ②授業利用に対する資料活用のサポート。 【高等部】 ①常連以外の生徒を図書館利用へ導く。 ②生徒に対する図書館利用のサポート、図書館資料活用のサポートを行う。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対 する取組内 容と成果)	【中・高共通】 ①図書館開架資料の整備とデータ（配架場所）の再構築を行った。新OPACの案内をし、生徒にiPadへの登録を働きかけたが、生徒全体には浸透しなかった。 ②新1年生にオリエンテーション、図書館ガイダンスを行った。 【中等部】 ①新1年生はガイダンスを図書館で行ったこともあり、利用が盛んだった。他学年も授業での利用を通して、図書館へ来る機会があるため利用は盛んだった。 ②授業利用では、調べる対象に関する資料をまとめて提供して、集中して作業できるようにした。また、参考資料の書き方などを指導した。図書館が利用できない場合も、ブックトラックで本を教室へ貸し出し、授業に支障がないように工夫した。 【高等部】 ①学校図書館担当者会の教員などに協力してもらい、夏休みの宿題に新潮文庫の「ワタシの一行大賞」に応募させるなど、教科以外の利用や読書の機会を与えるような活動をした。 ②教科や学年の調べ学習や課題の資料を探しに来た時に、サポートを行った。高等部3年生には、受験に関連することもサポートした。			
今後の課題	【中・高共通】 ①新1年生に、図書館オリエンテーションと図書館ガイダンスを行う。 ②新OPACの浸透が課題である。 【中等部】 ①1学期は図書館利用が多いが、勉強などが忙しくなってくる2学期以降の図書館利用が減少するため、図書館利用を習慣づけることが課題である。 【高等部】 ①教科や学年、部活など様々な方法で、利用者の増加に取り組む。 ②進路や受験に関する資料の活用が少ない。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①新1年生に、図書館オリエンテーションと図書館ガイダンスを行う。 ②教科以外の図書館利用を促す。			

	【中等部】 ①定期的に図書館を利用するような活動を行う。 ②教科などの図書館授業を通して、多くの分野の図書館資料に触れさせる機会を作る。 【高等部】 ①図書館の利用機会を増やす努力をする。 ②進路や受験に役立つ資料があることを周知し、活用を促す。
--	---

3-⑧	・学校行事、委員会活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校行事や委員会活動におけるICT活用を進め、作業や情報交換の組織化と効率化を図る。 ②生徒の実践力の向上を目的に、リーダーを中心とした組織的な連携を構築し、生徒の力による学校行事や委員会活動の実践を進める。 ③学校行事、委員会活動等においては生徒の安全と成長を重視し、新型コロナウイルス感染症予防と体調管理の徹底、危機管理に継続して努める。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①体育祭やみどり祭の準備、委員会活動において、担当教諭間や生徒の委員どうしの連絡、情報やデータの共有について、ICTの活用が進んだ。 ②新型コロナウイルス感染症流行の情勢を見極めながら、各種学校行事や委員会活動は委員長を中心として計画的に実施された。また、挨拶運動や、地域と連携した校外ボランティア活動への参加、校門付近の清掃などを行うことができた。 ③新型コロナウイルス感染症対策は定着し、学校行事や委員会活動においても適切に実施されている。体育祭やみどり祭では、適切な対策を行ったうえで特別な入場制限は行わず、生徒の活動や成長を保護者等に見ていただくことができた。
今後の課題	【中・高共通】 ①学校行事や委員会活動における作業の効率化を目指し、ICTの活用を今後も積極的に進める。良い方法は全体で共有し、活用の幅を広げたい。 ②委員長を中心とした行事や委員会の活動は、担当する教員の指導のもと順調に運営できている。生徒のアイデアと積極的な姿勢を尊重し、生徒主体の活動を一層進めていけると良い。 ③新型コロナウイルス感染症予防対策が緩和される中、校内の行事や活動においても適切な対応が求められる。必要な対応を行いながら生徒の成長を支える活動を継続する。

【中等部】 資料	【資料3-5】学校行事 【資料3-6】表彰 【資料3-7】委員会
【高等部】 資料	【資料3-5】学校行事 【資料3-6】表彰 【資料3-7】委員会
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校行事や委員会活動におけるICT活用と情報共有による、組織的な運営の効率化を図る。 ②学校行事や委員会活動においてリーダーを中心とした組織的な運営を進め、生徒のアイデアや積極的な姿勢を生かした活動を実践する。 ③生徒の安全や新型コロナウイルス感染症予防対策について適切な配慮を行いながら、生徒の成長を支える活動を継続する。

3-⑨	・部活動など教育課程外の活動が、適切な管理体制及び教職員全体の協力体制の下に実施されているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①「事故防止のための安全対策」をもとに、種目の特性に合った事故の予防、発生時の対策を適正にまとめる。 ②計画的な活動に向けて「部活動の在り方に関する方針」に則り、各部で部活動方針を作成し、活動の時間、場所、内容、安全等の適切な管理を行う。 ③部活動を教育活動の一環と捉え、生徒の思考力・実践力の育成に取り組む。 ④安全で充実した部活動の運用のために、顧問不在の場面でも役割を適切に補完できる体制を整える。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①年度初めに「事故防止のための安全対策」の確認と見直しを行った。 ②年度初めに「部活動方針」の確認と見直しを行い、活動の特性や活動内容に合わせた安全管理を徹底した。 ③各部顧問やコーチの監督のもと、適切に指導が行われた。 ④諸会議や休日出勤の振替等で顧問の教員が不在の場合には、副顧問及び近くで活動する部の顧問による安全管理が行われている部が多い。
今後の課題	【中・高共通】 ①今後も状況の変化に合わせて、安全対策や新型コロナウイルス感染症予防に取り組む。 ②部活動方針の確認と見直しを継続するとともに、社会情勢に伴う新しい対応についても適正かつ速やかに対応する。 ③各部顧問の適正な指導により、今後も生徒の心身の成長を支える。

	④本館側の施設を使用する際の安全対策や顧問不在時の対応について、適切な対応ができる体制を整える。
【中等部】 資料	【資料3-8】校友会（部活動）入部者数 【資料3-9】校友会（部活動）部別所属人数 【資料3-10】校友会（部活動）活動結果
【高等部】 資料	【資料3-8】校友会（部活動）入部者数 【資料3-9】校友会（部活動）部別所属人数 【資料3-10】校友会（部活動）活動結果
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①「事故防止のための安全対策」の確認を行い、種目の特性に合った事故の予防、事故発生時の対策を現状に合わせて継続する。 ②「部活動の在り方に関する方針」をもとに各部の部活動方針を状況に合わせて修正し、活動の時間、場所、内容、安全等について適切な管理を行う。 ③教育活動の一環として、部活動を通じた生徒の思考力・実践力・社会性等の育成に取り組む。 ④安全で充実した部活動の運用を目指し、顧問どうしの連携を進める。

3-⑩	・併設校3部の連携・協力のための取組がなされているか。 ・幼稚部との連携に関する取組がなされているか。また、小中連携、中高連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。			
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①併設校相互の連携を図るために定期的に三部長会を開催する。 ②併設校の連携を図るために、みどり祭（文化祭）を同日に開催し、園児・児童も楽しめる催し物を企画する。 ③中・高等部の教育活動を初等部の保護者・児童に知ってもらうために、初等部を対象とした学校説明会を開催する。 ④中・高等部の生徒が幼稚部生や初等部生と交流できる機会（職業体験、授業での交流など）を設ける。 ⑤中高連携を目指し、校友会の部活動や委員会活動、みどり祭（文化祭）や体育祭などの各種行事、講話等は中・高等部合同で実施する。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①ほぼ毎月、三部長会を開催することができた。施設管理部長も参加し、連携を図ることができた。 ②岩瀬キャンパス内のすべての併設校が、みどり祭（文化祭）を同日に開催することができた。併設校の園児・児童も楽しめる催し物も実施された。 ③初等部には学校説明会に参加してもらえよう、募集要項とポスターを配布し			

	た。個別相談では内部進学に向けての対応を直接保護者に説明する。また公開模試を本校で実施し、同時に保護者会を実施した。 ④中等部2年の技術・家庭の授業で幼稚部を訪問し、「ふれあい体験実習」を実施した。 ⑤部活動や委員会活動、各種学校行事等において、中等部と高等部は連携した活動が実施されている。 【中等部】 ④中等部2年生の技術・家庭の授業でクラスごとに幼稚部を訪問し、幼児とのふれあい体験実習を実施することができた。
今後の課題	【中・高共通】 ①併設校相互の情報共有を引き続き継続する。 ②新型コロナウイルス感染症の流行状況を取り巻く情勢を見極め、可能な範囲で併設校との交流を図る企画を検討する。 ③初等部の多くの保護者と児童に学校説明会に参加してもらう。 ④中等部2年の技術・家庭の授業で、安全・安心な「ふれあい体験実習」を実施する。 ⑤今後も部活動や委員会活動、学校行事等における中高連携を継続し、良好な関係性を維持する。
【中等部】 資料	【資料3-11】 併設校との連携
【高等部】 資料	【資料3-11】 併設校との連携
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①併設校相互の連携を図るために定期的に三部長会を開催する。 ②併設校の連携を図るために、みどり祭（文化祭）を同日開催し、園児・児童も楽しめる催し物を企画する。 ③初等部を対象とした学校説明会を計画的に開催する。 ④中・高等部の生徒が幼稚部生や初等部生と交流できる機会（職業体験、授業での交流など）を設定する。 ⑤中高連携を進め、校友会の部活動や委員会活動、みどり祭（文化祭）や体育祭などの各種行事、講話等は中・高等部合同で実施する。

3-⑪	・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①大学の各種実習（教育実習、教職実践演習フィールドワーク、心理実習等）に協力し、円滑な実施のために大学と連携する。 ②みどり祭（文化祭）において大学の学友会と中等部・高等部の校友会との連携を図る。 【高等部】

	①鎌倉女子大学に進学を希望する生徒のための高大連携講座や進学決定者の申し送りを通して円滑な接続を図る。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①教育実習や心理実習は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めつつ円滑に実施することができた。 ②みどり祭（文化祭）においては新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、大学学友会と連携した企画等は実施しなかった。 【高等部】 ①高大連携講座は、14名が参加し、大学との連携を図り、実施できた。本学進学者22名（併願確約制度利用者以外）が2月の高大連携集中講座に参加した。また、前年度同様、コロナ禍の中、資料による本学進学者の申し送りを行った。
今後の課題	【中・高共通】 ①今後の新型コロナウイルス感染症予防対策の状況を踏まえたうえで実施する。 ②新型コロナウイルス感染症の流行状況を取り巻く情勢を見極め、可能な範囲で交流を図る企画の実施を検討する。 【高等部】 ①高大連携講座は、大学と更なる連携を図り、充実したものにする。
【中等部】 資料	【資料3-11】 併設校との連携
【高等部】 資料	【資料3-11】 併設校との連携
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①大学の各種実習（教育実習、教職実践演習フィールドワーク、心理実習等）に協力し、円滑な実施のために大学と連携する。 ②みどり祭（文化祭）において大学の学友会と中等部・高等部の校友会との連携を図る。 【高等部】 ①鎌倉女子大学に進学を希望する生徒のための高大連携講座や進学決定者の申し送りを通して円滑な接続を図る。

4. キャリア教育（進路指導）

4-①	・ 中・高全体として組織的にキャリア教育（進路指導）に取り組んでいるか。 ・ 生徒の適切な勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成するための体系的・系統的な指導が行われているか。 ・ また、職場体験や就業体験が適切に実施されているか。			
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ① 高等部の進路ガイダンスとキャリアガイダンスの違いを明確化する。 ② キャリア意識の向上だけでなく、学びの有効性に関する意識の向上に資するガイダンスの内容を検討する。 ③ コロナ禍であっても実施可能なキャリア講演会の開催方法を研究、検討する。 ④ 中・高1年生に対するキャリアガイダンスの振り返り結果を分析し、より実効性のある内容を専門家の助言も受けながら研究、検討する。 【高等部】 ① 職業体験については、受け入れ可能な施設を探す一方で、オンラインによる職業体験を検討する。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する 取組内容と成果）	【中・高共通】 ① 進路ガイダンスは情報提供のガイダンスとして、キャリアガイダンスは、グループワークを通じて生徒自身のキャリアデザインを学び、考えていくものとした。 ② キャリア意識調査の学習に関する項目の尺度得点が統計的に優位に上昇したため、現状の取り組みも有意であると考えられる。 【中等部】 ① 中・高1年生のキャリアガイダンスの課題内容を変更した結果、キャリア意識に統計的に有意な上昇が見られ、実効性が確認できた。キャリア講演会については、講演内容について97%が満足であった。 【高等部】 ① 職業体験については、ご家庭の判断で、希望する生徒に個人で申し込みをしてもらう方法で実施した。参加した生徒にはインタビューを行い、インタビューの内容を録画し、後輩の職業体験時の資料とする。			
今後の課題	【中・高共通】 ① キャリア講演会は、6学年を対象とした講演内容の選定が難しいことが、本年度の講演会後の調査で明らかになった。校種別に実施することも視野に入れていく必要がある。 ② キャリア講演会は、一方的な講演でなく、ワークショップ形式やパネルディスカッション形式にすることで、満足度が高まったため、今後の講演においても、同様の形式での開催を検討する。 ③ キャリアガイダンスの実施効果の継続性を調査と、継続的なキャリア。ガイダ			

	ンスの実施日程の確保が重要である。 【高等部】 ①新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せているため、令和5（2023）年度からは、職業体験、インターシップの再開を検討する。
【中等部】 資料	【資料4-1】進路指導・キャリア教育
【高等部】 資料	【資料4-1】進路指導・キャリア教育
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①キャリア講演会は、校種別の実施を検討する。また、その際の人選なども検討する。 ②キャリアガイダンスの実施効果の継続性を検証する。キャリア意識調査の学習に関する項目の尺度得点を活用して、継続性を確認する。まキャリアガイダンスクラスワイドのキャリアガイダンスへの参加を促す。 【高等部】 ①職業体験やインターシップの受け入れ準備を行う。 ②参加した生徒のインタビュー動画を作成し、アーカイブとして、生徒がいつでもアクセスできる環境を検討する。

4-②	・生徒一人ひとりの理解を深めるために必要な資料や、進路情報が適切に収集され、活用されているとともに、進路相談（キャリア・カウンセリング）が適切に実施されているか。また、キャリア教育（進路指導）のための施設設備が整備されているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①ベネッセの「Classi」の学習時間の活用で生徒の学習習慣の定着を図り、模擬試験分析会を活用し、教員の学習に対する意識を高め、生徒への指導につなげていく。 ②進路ガイダンス、学習ガイダンスを工夫し、各学年での進路に関する集会などの開催を活発化させていく。 【中等部】 ①中等部3年生が高等部進学に向けて学習に熱心に取り組むための仕掛けを作る。 【高等部】 ①オープンキャンパスなどに参加が難しい状況ではあるが、生徒の大学受験に対する意識向上のため、校内大学合同説明会を刷新するなどの工夫をしていく。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対	【中・高共通】 ①担任教員が生徒の学習時間を入力し、学習習慣が定着した生徒を確認することができるようになった。模擬試験の前に、教員自ら問題を解き、生徒を指導す

する取組内容と成果)	る授業担当者が増えている。 ②進路ガイダンスや学習ガイダンスでは、生徒の意識を一定数・一定期間高めることに成功している。 【中等部】 ①中等部3年生の高等部進学に向けての目標を改正し、英数国の3教科での基準と定めた。最終的には再試験の生徒もいたが、取り組みやすい目標となった。 【高等部】 ①校内大学合同説明会は業者を新しくし、連絡を密に取りながら進めていくことができた。校外大学合同説明会は参加校の参加控えなどもあったが、生徒は熱心に取り組んだ。
今後の課題	【中・高共通】 ①学習習慣の定着を学力の向上につなげるため、今後も学習記録を丁寧に指導し、生徒が主体的に学ぶよう取り組んでいく。模試分析会も成績だけではなく、生徒の教科教育指導につながる話を盛り込むようにし、教員の意識が生徒の学力向上に向けて更にたかまるようにしていく。 ②進路ガイダンス、学習ガイダンスを進路担当の教員が行い、教員のスキルアップを図る。 【中等部】 ①進路ガイダンスなどを通じて生徒・教員・保護者で連携し、中等部での学習習慣を定着させ、目標を持って学習するよう促す。 【高等部】 ①コロナ禍で滞っていたが、生徒が自主的にオープンキャンパスに行くよう、学校主催の大学合同説明会が活用できるようにする。
【中等部】 資料	【資料4-2】 模擬試験 【資料4-3】 卒業生進学先
【高等部】 資料	【資料4-2】 模擬試験 【資料4-3】 大学合格先 【資料4-4】 大学合格者受験方法 【資料4-5】 短期大学合格先 【資料4-6】 短期大学合格者受験方法 【資料4-7】 併設大学進学者数 【資料4-8】 卒業生進学先
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学習時間記録を活用し、生徒の学習習慣の定着を図る。模擬試験分析会を活用し、教員の学習に対する意識を高め、生徒への指導につなげていく。 ②生徒が目標を持って学習できるよう進路ガイダンスを工夫し、各学年における進路に関する集会などの開催を活発化させていく。 【中等部】 ①中等部低学年での学習習慣を定着させ、成績を向上させる。 ②進路ガイダンス・学習ガイダンスの効果を高める。 【高等部】 ①高等部1年生の学習習慣の定着を図り、成績を向上させる ②進路ガイダンスなどを通じて、生徒の大学受験に対する意識を高める。

5. 生徒指導

5-①	・ 中部・高等部全体で生徒の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。 ・ 自主的・自律的に行動でき、豊かな人間関係を構築でき、社会の一員としての意識を身に付けた生徒を育成するための指導を行っているか。			
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ① 計画的な生徒指導を行うために生徒指導計画を作成する。また「生徒指導ハンドブック」を編集・発行する。 ② 各教職員が生徒の状況を共有するために、職員会議で各学年の生徒状況を報告する。各学年で迅速、足並みをそろえた対応が必要な場合は、生徒指導関連の連絡・共有を「Classi」を用いて行う。 ③ 計画的・組織的に豊かな人間性の育成に取り組むために「心の教育プラン」を実施する。 ④ 自己内省を促すために、修養の鐘の指導等を計画・実施する。 ⑤ 感性を育てるために、芸術鑑賞教室を計画・実施する。 ⑥ 社会性を育てるために、日直活動の指導、礼儀・挨拶の指導、立居振舞講座を計画・実施する。 ⑦ 「学校いじめ防止基本方針」を毎年度見直し、全教職員でいじめ防止に取り組む。			
【中部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する 取組内容と成果)	【中・高共通】 ① 新年度開始までに「生徒指導ハンドブック」を作成し、発行した。その中に生徒指導計画を明記した。 ② 職員会議で各学年の生徒状況報告を行った。「Classi」を用いた連絡・情報共有は、マナー指導等、共通認識が必要な内容を伝達することができた。 ③ 「心の教育プラン」を策定し、実施した。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「入学坐禅」「合唱コンクール」の行事を中止した。 ④ 修養の鐘の指導はオリエンテーションで意義と方法を説明し、日常から率先垂範で指導を行った。 ⑤ 芸術鑑賞教室は新型コロナウイルス感染症の流行状況に配慮しながら、校外の劇場で実施することができた。「Classi」を使用したアンケートで、回答した生徒のうち約93%が「良かった」と回答した。 ⑥ 日直活動は全学年で担任が指導した。礼儀・挨拶指導は、各学級で指導するとともに、朝の挨拶指導を生徒指導委員会が中心となりほぼ毎日実施した。立居振舞講座は、年2回、新型コロナウイルス感染症予防対策を行った上で実施することができた。 ⑦ 「学校いじめ防止基本方針」は、特に変更を要する点はなかった。			
今後の課題	【中・高共通】 ① 「生徒指導ハンドブック」の読み合わせの機会を設け、情報共有を十分に行う。			

	生徒指導提要の改訂に合わせた内容になるよう、検討を行う。 ②「Classi」の情報を見落とさないようにするとともに、特に大切なものは朝の打ち合わせで口頭の連絡も行う。また、共有した情報の取扱いに十分注意を払う。 ③本年度中止となった行事は、実施できるように検討していく。 ④修養の鐘の指導は、日常的に意義を確認する指導が求められる。 ⑤芸術鑑賞教室は、校外の劇場で鑑賞できるものを中心に検討する。 ⑥日直活動の指導は、各クラスで温度差が生じないように学年団で情報を共有し、均一化を図る。立居振舞講座は、新型コロナウイルス感染症対策を考慮しつつ実施する。 ⑦「学校いじめ防止基本方針」の読み合わせをする機会を作り、情報共有を十分ににする。
【中等部】 資料	【資料5-1】生徒指導計画
【高等部】 資料	【資料5-1】生徒指導計画
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①計画的な生徒指導を行うために、生徒指導計画を作成する。また、「生徒指導ハンドブック」を編集・発行する。 ②各教職員が生徒の状況を共有するために、職員会議で各学年の生徒状況を報告する。また迅速かつ足並みをそろえた対応が必要な場合には、連絡・共有事項を「Classi」を用いて伝達するとともに、朝の職員打ち合わせでの連絡も併用する。 ③計画的・組織的に豊かな人間性の育成に取り組むために、「心の教育プラン」を実施する。 ④自己内省を促すために、修養の鐘の指導等を計画・実施する。 ⑤感性を育てるために、芸術鑑賞教室を計画・実施する。 ⑥社会性を育てるために、日直活動の指導、礼儀・挨拶の指導、立居振舞講座を計画・実施する。 ⑦「学校いじめ防止基本方針」を毎年度見直し、全教職員でいじめ防止に取り組む。

5-②	・生徒指導のための教育相談が計画的に行われているとともに、スクールカウンセラー等との連携が効果的になされているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教育相談委員会を生徒指導委員会に抱合しつつ、定期開催する。情報共有の範囲について適切に定める。 ②学校生活アンケートをもとに、二者面談の実施について各学年に提案を行う。面談の内容、結果については、教育相談委員会で情報を共有する。 ③道徳の時間等以外に、SHR（ショートホームルーム）でも実施可能なエンカウンタープログラムを提供する。

	【高等部】 ①キャリア・カウンセリングに関する紙上演習などを、職員会議などを通じて情報発信する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①各月、年間8回、教育相談委員会を実施した。共有は教育相談委員会と運営委員会までとした。 ②学校生活アンケートの結果をもとに、二者面談実施について提案を行った。面談に関する情報共有は、委員会を待たずに各学年と情報共有をおこなった。 ③エンカウンター講座の実施後のSHR（ショートホームルーム）や総合の時間など状況に応じて行うことができた。 【高等部】 ①キャリア・カウンセリングについては、生徒からキャリア相談を受けた教員に対し、必要に応じてキャリア・カウンセリングに関するスーパービジョンを行い、紙面でも指導を行った。
今後の課題	【中・高共通】 ①教育相談委員会を定期開催する。 ②学校生活アンケートをもとにした二者面談の実施案を、各学年に提供する。 ③行事などで定期的に行うことができないときがあるため、定期的の実施できるようにする。 【高等部】 ①各種カウンセリングに対する需要が高まる中、各種カウンセリングに関する研修の時間を確保できない現状がある。生徒に寄り添うカウンセリング技術が、進路指導の土台であるため、カウンセリングに関する研修時間を捻出する。
2023年度の取組目標	【中・高共通】 ①教育相談委員会を定期開催する。 ②学校生活アンケートをもとに、二者面談の実施について各学年に提案を行う。面談の内容、結果については、教育相談委員会で情報を共有する。 ③SHR（ショートホームルーム）などで実施するエンカウンタープログラムを定期的に行う。 【高等部】 ①模試分析会の最後に、分析会の内容を受けたキャリア・カウンセリングの演習を行えるようにしたい。

6. 保健管理

【中・高等部】 6-①	・法定の学校保健計画が作成され、生徒の保健管理、保健教育が適切に実施されているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談を適切に実施する。 ②日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取り組み、健康診断を適切に実施する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①薬物乱用防止について、主に保健の授業で指導をおこなった。 ②各クラス、朝のSHR（ショートホームルーム）で健康管理表を使用した健康観察（体温確認など）を実施した。
今後の課題	【中・高共通】 ②新型コロナウイルス感染症対策として行っている健康管理表の記入をいつまで行うか、検討する必要がある。
【中等部】 資料	【資料6-1】 学校保健計画 【資料6-2】 保健室利用件数 【資料6-3】 保健室学年別利用件数 【資料6-4】 保健室月別利用件数
【高等部】 資料	【資料6-1】 学校保健計画 【資料6-2】 保健室利用件数 【資料6-3】 保健室学年別利用件数 【資料6-4】 保健室月別利用件数
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談を適切に実施する。 ②日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取り組み、健康診断を適切に実施する。

【保健センター】 6-①	・法定の学校保健計画が作成され、生徒の保健管理、保健教育が適切に実施されているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①オリエンテーションや保健だよりを通じて、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を呼び掛けや、予防接種についての情報発信をする。 ②新校舎になり、初めての健康診断となる。主に移動の動線や健康診断会場の設定が適切であるか振り返りをしっかり行い、次年度に繋げていく。 ③相談件数が増加している。カウンセラーと連携を取り、必要時は速やかに相談室に繋がられるようにする。

	④職員対象の緊急時対応講習会を実施し、非常時の連携についての確認を行い、適切な対応が行えるようにする。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①オリエンテーションや保健だよりはもちろん、校内巡回や保健室来室時など、機会があるごとに新型コロナウイルス感染症対策についての指導や啓蒙を行った。全教職員で共通認識のもとに対応に当たり、学内でクラスターが発生することはなかった。 ②会場の明るさ、指導のしやすさ、動線などについて適切であった。本年度より設けた更衣室は、生徒、教員それぞれから有効であったとの評価が得られた。 ③月に1回の教育相談委員会で各学年の生徒指導担当者及びカウンセラーと情報共有を図ることができ、連携して対応に当たることができた。 ④職員対象の緊急時対応講習会を1学期に2回実施した。緊急時対応が必要な生徒の確認及び非常時の連携についての確認を行った。新たな課題の発見があり、継続的な取り組みを行っていく。			
今後の課題	【中・高共通】 ①新型コロナウイルス感染症の影響による非日常が日常と化した生活が当たり前になっているため、対策が緩和された時の個々の反応に差があることが考えられる。生徒によっては大きなストレスになることも想定されるため、全体指導と個別指導をそれぞれ丁寧に行っていく必要がある。 ②適切な環境下で健康診断を実施できている。健康診断を受けるにあたり、受け身になっている生徒が多いと感じるため、健康に対する興味関心が深まる取り組みが必要である。 ③保健室で対応に当たる相談について、個別の把握はできているが、分析ができていない。大枠をとらえることにより、全体の傾向を知り、教育相談委員会にて、共有し、共通認識を持って対応に当たれるようにしたい。 ④職員対象の緊急時対応講習会について、毎年継続して行うこと、学外から講師を招くことにより、更なる技術力の向上及び速やかな連携が取れるようにする。			
【中等部】 資料	【資料6-1】 学校保健計画		【資料6-2】 保健室利用件数	
	【資料6-3】 保健室学年別利用件数		【資料6-4】 保健室月別利用件数	
【高等部】 資料	【資料6-1】 学校保健計画		【資料6-2】 保健室利用件数	
	【資料6-3】 保健室学年別利用件数		【資料6-4】 保健室月別利用件数	
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①国の方針をもとに正しい知識が得られるよう指導に当たり、集団生活に対する不安が起こらないような指導を行っていく。また、各教科と連携を取り、対応に当たることにより充実した保健教育を実施する。 ②現在実施している保健講座の内容を精査し、発達段階だけでなく、学年事情に適した内容での実施を目指す。また熱中症対策について、体育科や生徒指導委			

	員会と連携をとり、予防に努める。 ③保健室で対応に当たる相談について、学級、校友会、相談内容の区分けなどを行い、関係職員と共有することで、より効果的に対応できるよう努める。 ④教職員の心肺蘇生法講習会について、消防署と連携した実施を目指す。実技実習に当たる時間や講師数を多く確保することにより、技術力の向上に努める。
--	---

7. 安全管理

7-①	・ 法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているとともに、学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。また、校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。			
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校安全計画を作成し、教職員で共有し、適切に運用する。 ②「防災・防犯マニュアル」の防犯対策部分について更新し、教職員及び全校生徒で共有し、適切に運用する。 ③各学期1回、年間3回の校内安全点検を実施する。 ④登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）を適切に運用する。 ⑤防災訓練の運営及び防災教育指導を行う。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内 容と成果）	【中・高共通】 ①学校安全計画を作成し、「生徒指導ハンドブック」に掲載することで教職員に共有、適切に運用することができた。 ②「防災・防犯マニュアル」を作成し、教職員及び全校生徒に発行し、適切に運用した。 ③年間3回、各学期に校内安全点検を実施した。 ④登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）を1学期始業式から適切に運用した。 ⑤避難訓練を1回、新年度の1学期に実施した。			
今後の課題	【中・高共通】 ①「生徒指導ハンドブック」の読み合わせをする機会を設け、学校安全計画について情報共有を十分に行う。 ②「防災・防犯マニュアル」で、防犯対策の部分について時代に即したものに修正する。 ③必要な個所の点検で済むようにする。 ④登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）のスムーズな運用開始のため、業者と密接な連携をとる。 ⑤新年度の早い時期に避難訓練を実施する。			
【中等部】 資料	【資料7-1】 学校安全計画		【資料7-2】 危機管理マニュアル	
【高等部】 資料	【資料7-1】 学校安全計画		【資料7-2】 危機管理マニュアル	
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校安全計画を作成し、教職員で共有し、適切に運用する。 ②「防災・防犯マニュアル」の防犯対策部分について更新し、教職員及び全校生			

	徒で共有し、適切に運用する。 ③各学期1回、年間3回の校内安全点検を実施する。 ④登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）を適切に運用する。 ⑤防災訓練の運営及び防災教育指導を行う。
--	--

7-②	・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①有事における安全確保のための基本行動を周知させるため、中・高等部校舎単独で引き続き防災訓練を実施する。 ②岩瀬キャンパス全体での防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）を継続して実施し、行政機関への報告を行う。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ・中・高等部での防災訓練を1回実施し、防災訓練内で消火器取扱い訓練も併せて行った。新型コロナウイルス感染防止策として、訓練の際に消防署の立ち合いを行わない方針が鎌倉市から出されていたため、立会いのない自主訓練の形式で実施した。 ・中・高新校舎移転後は、消防署からの指示により新校舎として防災管理を単独で行い防火管理者を選出することとなった。法人と相談した結果、中・高等部長が防火管理者の任に当たることになった。 ・中・高等部独自の「防災・防災マニュアル」を発行し、生徒だけではなく保護者に対しても、防災に関する基本行動や心構えの周知を行うことができた。 ・備蓄食料の配布を通じて、生徒の災害時の食事に対する意識を高めた。 ・中・高等部での防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）は法令上不要となったが、自主的な安全点検を継続して行っている。
今後の課題	【中・高共通】 ・様々な場面を想定し、併設校各部や総務課、施設管理課、管轄消防署等と相談を行いながら、有事に対応できるような活動を今後も継続する。 ・令和 3(2021)年9月に中・高等部校舎が南グラウンド敷地内に移転したが、岩瀬キャンパス全体として、幼稚部や初等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていく。
【中等部】 資料	【資料7-3】避難訓練実施日
【高等部】 資料	【資料7-3】避難訓練実施日

2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ・有事における安全確保のための基本行動を周知させるため、中・高等部校舎単独で引き続き防災訓練を実施する。 ・中・高等部内での自主的な安全点検について、今後も継続して実施する。
-----------------	--

8. 組織運営

8-①	・部長（校長）など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①風通しの良い職場を作るために、管理職は全教職員と適切なコミュニケーションを取るよう努める。 ②組織的・計画的な教育活動や学校運営を実現するために、管理職は各主任等を適切に指導・支援する。 ③学校マネジメントを推進するために、マネジメントに関する教職員の知識やスキルを向上させる。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標対 する取組内 容と成果）	【中・高共通】 ①部長は教職員と適宜面接を実施し、一人ひとりの教職員とコミュニケーションをとるよう努めた。 ②主任等に対して、運営組織図をもとに業務内容と権限を明確にしたため、教育活動や学校運営において、より組織的に取り組めるようになった。 ③学校教育と学校運営の重点取組をまとめ、その下に実施計画等を作成し、それにもとづき実行した。評価・改善にも取り組み、学校全体のPDCAマネジメントサイクルを構築することができた。
今後の課題	【中・高共通】 ①教職員と管理職が情報交換や相談をしやすい環境を整える。 ②運営会議において、各主任に学校の10の重点取組分野を理解させる。 ③学校マネジメントに関する、教職員全体の知識やスキルの向上を図る。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①管理職は全教職員と適切なコミュニケーションを取るよう努める。 ②組織的・計画的な教育活動や学校運営を実現するために、管理職は主任等を指導・支援する。 ③学校マネジメントを推進するために、マネジメントに関する教職員の知識やスキルを向上させる。

8-②	・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているとともに、職員会議等が学校運営において有効に機能しているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①校内組織の活性化のために、校務分掌や学年の主任等をミドルリーダーとして位置付けた校内組織を運用する。

	②学校経営方針の周知徹底、学校運営の改善、情報の共有のために、管理職、校務委員会の各主任、提案者が出席する運営会議を毎月開催する。 ③学校の教育方針、教育目標、教育計画、教育課題への対応等に関する教員間の意思疎通、共通理解の促進、教職員の意見交換のために、全教職員が出席する職員会議を毎月開催する。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①校務分担一覧の作成により、各主任が業務内容を把握できるようになり、グループリーダーとしての意識や責任感を持って運営に取り組むようになった。 ②運営会議に担当窓口制度を設定しているため、各組織での計画や取り組みについて検討することができた。 ③職員会議の前の時間に何度か模擬試験の検討会が入っていたが、効率的な職員会議を実施することができた。			
今後の課題	【中・高共通】 ①ミドルリーダーとして位置付けた校内組織の運用を徹底する。 ②校務委員会の主任は基幹教員として、理解し合う機会を持つ必要がある。 ③職員会議の効率化を図るために、議題を事前に計画的に提示する必要がある。			
【中等部】 資料	【資料8-1】 運営組織図 【資料8-3】 教科主任・教科担当 【資料8-5】 校務委員会と担当者会		【資料8-2】 各分掌の所管事項 【資料8-4】 学年所属 【資料8-6】 特別委員会	
【高等部】 資料	【資料8-1】 運営組織図 【資料8-3】 教科主任・教科担当 【資料8-5】 校務委員会と担当者会		【資料8-2】 各分掌の所管事項 【資料8-4】 学年所属 【資料8-6】 特別委員会	
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①校務分掌や学年の主任をミドルリーダーとして位置付けた校内組織を運用する。 ②学校経営方針の周知徹底、学校運営の改善、情報の共有のために、管理職、校務委員会の各主任、提案者が出席する運営会議を毎月開催する。 ③学校の教育方針、教育目標、教育計画、教育課題への対応等に関する教員間の意思疎通、共通理解の促進、教職員の意見交換のために、全教職員が出席する職員会議を毎月開催する。			

8-③	・各種文書や個人情報などの中等部・高等部が保有する情報が適切に管理されるとともに、情報の取り扱い方針が教職員に周知されているか。
2022年度の取組目標	【中・高共通】 ①学校運営上必要な氏名、住所、電話番号、写真等の使用については保護者の理

	解に努め、必ずその使用についての同意書を全員から受け取る。 ②個人情報の保管や不要なものの廃棄を適正、確実に行う。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対 する取組内 容と成果)	【中・高共通】 ①新入生には入学手続き時に個人情報の取り扱いについての同意書を配付し、全員の保護者から提出された。また、ホームページや学校案内に生徒の写真が掲載される場合には、広報委員会から別途、生徒・保護者の同意を得た。また、本人が特定されないようにするなどの配慮を行った。 ②生徒氏名・住所・成績等の個人情報の一切は、教務委員会で一元管理しているだけでなく、個人所有の情報機器の使用禁止並びにデジタルデータの持ち出しを禁止することで個人情報の流出防止に努めた。また、学校備付表簿は、学校教育法施行規則第28条により定められた保存期間を遵守し、保存期間が過ぎたものは適切な方法で廃棄している。			
今後の課題	【中・高共通】 ①各種文書や個人情報などの中・高等部が保有する情報の取り扱いについてだけでなく、教職員が使用しているタブレット等のICT機器の取り扱いについても、新しく着任した教職員に周知徹底する。 ②紙媒体の個人情報だけでなく、デジタル媒体における個人情報の破棄についても適性、確実に行う。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校運営上必要な氏名、住所、電話番号、写真等の使用については保護者の理解に努め、必ずその使用についての同意書を全員から受け取る。 ②個人情報の保管や不要なものの廃棄を適正、確実に行う。			

9. 研修（資質向上の取組）

9-①	・全教員による授業研究会を行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に中等部・高等部全体で取り組んでいるか。			
2022年度の取組目標	【中・高共通】 ①研究研修プランで授業研究の方針を共有する。 ②教科会を授業研究の場とし、効果的な授業方法・教材等を共有する。 ③指導技術を学び合うために、相互に授業を参観する公開授業週間を開催する。 ④模擬試験の成績分析と共に、教員が生徒に教科や担任としてアドバイスできる、最新の受験情報や学習方法の他校の事例などを増やし、分析会がより役に立つようにしたい。			
【中等部】達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①研究研修プランをもとに生徒の学力向上に向けた授業研究の方針を教員間で共有した。 ②教科会において、教材や授業方法等の情報共有や教科内研修に取り組んだ。 ③年に2回、公開授業週間を設定し、教員が相互に授業参観を行った。言語コミュニケーションスキルや、表情や身振りなど、非言語コミュニケーションスキルの指導技術を視点として授業参観を行った。			
今後の課題	【中・高共通】 ①授業研究に取り組むための基本方針の共有と組織的な取り組みを必要とする。 ②すべての教科に応用できる指導技術を共有するために、様々な教科の授業を相互に参観できるようにする。 ③資料分析型の教員研修ではなく、授業力向上のための研修を主眼とした研修会を充実させる。			
【中等部】資料	【資料9-1】授業研究（授業公開）			
【高等部】資料	【資料9-1】授業研究（授業公開）			
2023年度の取組目標	【中・高共通】 ①研究研修プランで授業研究の基本方針を共有する。 ②教科会を授業研究の場とし、効果的な授業方法や教材・教具等を共有する。 ③教科指導の技術を学び合うために、相互に授業を参観する公開授業週間を引き続き開催する。			

9-②	・校内研修・校外研修の課題が適切に設定され、実施されているとともに、教職員が積極的に校内研修・校外研修に参加しているか。
-----	--

2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①健康・安全に関する「エピペン講習会」「心肺蘇生法講習会」を実施する。 ②生徒指導・理解に関する研修会を実施する時間を確保し、企画する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対 する取組内 容と成果)	【中・高共通】 ①エピペン講習会、心肺蘇生法講習会は、保健室主導で、予定どおり実施された。 ②生徒指導・理解に関する研修会を、夏休み最終日の職員会議で行い、学校生活満足度アンケート結果の見方や、近年の教育相談的課題を伝えた。
今後の課題	【中・高共通】 ①エピペン講習会や心肺蘇生法講習会に全教職員が参加できるよう、保健センターと日程調整する。 ②学校生活満足度アンケートの結果を活用し、学級運営に生かす。
【中等部】 資料	【資料9-2】 研修
【高等部】 資料	【資料9-2】 研修
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ・エピペン講習会と心肺蘇生法講習会の日程を調整する。 ・学校生活満足度アンケートの結果を活用した学級運営講習会を企画・運営する。

9-③	・部長（校長）等の管理職が定期的に授業観察を行い、教員の指導の状況を的確に把握するとともに、教員に対して適切な指導・助言をしているか。また、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教員の授業力向上のために、管理職は授業公開週間を中心に全教員の授業を参観し、授業改善のアドバイスを行う。 ②教員の指導力向上のために、管理職は計画的に研修資料の提示や指導を行う。 ③不祥事防止のために、管理職は全教職員に向けて指導や注意喚起を行う。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由	【中・高共通】 ①年に2回「公開授業」を設定し、教員が相互に授業参観を行った。どの教科にも

（目標に対する取組内容と成果）	共通する授業中における「説明」「指示」「発問」「助言」の言語コミュニケーションスキルや、非言語コミュニケーションスキルなどの指導技術を視点として授業参観を行うことにしたため、他の教科の授業を参観しやすくなった。 ②研究研修プランに基づき授業研究の方針を共有することができた。 ③情報セキュリティについての研修資料を紹介した。
今後の課題	【中・高共通】 ①「知識・技能」の定着と「思考力・判断力・表現力」の育成を意識した授業研究に取り組むための方針の共有が必要である。 ②授業力を向上させる組織的な取り組みが必要である。 ③どの教科にも応用できる指導技術を共有するために、様々な教科の授業を参観できるようにする。 ④外部講師の招聘を検討する。
2023年度の取組目標	【中・高共通】 ①教員の授業力向上のために、管理職は常に教員の授業を参観し、授業改善のアドバイスを行う。 ②教員の指導力向上のために、管理職は計画的に研修資料の提示や指導を行う。 ③不祥事防止のために、管理職は全教職員に向けて指導や注意喚起を行う。

10. 保護者・地域社会等との連携

10-①	・保護者が中等部・高等部に協力できる体制（教育ボランティア等）を整えているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①保護者が学校行事や生徒の活動に協力できるよう、丁寧な広報活動を行う。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	【中・高共通】 ①新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、体育祭、みどり祭（文化祭）などへの保護者有志による参加と、立居振舞講座の保護者の参加を中止とした。入学式・卒業式・みどり祭（文化祭）などは保護者の参加人数を制限し、当日、入場時の手指消毒や体温チェックなどの協力を得られるように広報に努めた。 ②校務分担一覧の保護者との連携・協働の担当者は次長とし、保護者との窓口を明確にしている。
今後の課題	【中・高共通】 ①保護者の行事参加について、次年度は実施の方向で検討していく。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①保護者が学校行事や生徒の活動に協力できるよう、丁寧な広報活動を行う。

10-②	・学校公開を定期的実施しているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①保護者に授業中の様子を知ってもらうために授業参観を実施し、参観者人数を100名以上にする。 ②生徒の活動の様子や成果を発表する場として、状況に合った適正な範囲で体育祭・合唱コンクール・みどり祭（文化祭）の3行事を保護者に公開する。 ③令和4（2022）年度は新型コロナウイルス感染症拡大状況の先行きが不透明であること、クラス数の増加で時間の割り振りが難しいことから、保護者対象の立居振舞講座は実施しない。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対	【中・高共通】 ①コロナ禍ではあるが、予定どおり実施できた。また、参観者数についても6月は167名、11月は105名で合計272名が参加し、参加者数を100名以上にすることが

する取組内容と成果)	できた。 ②合唱コンクールは中止となったが、体育祭とみどり祭（文化祭）については特別な制限を設けずに、保護者が生徒の様子を見ることができた。 ③実施しなかった。
今後の課題	【中・高共通】 ①今後の新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえ、授業参観を実施していく必要がある。 ②新型コロナウイルス感染症予防対策は徐々に緩和されつつあるが、状況を適切に判断し、必要な対応を施しながら各行事の公開方法を慎重に判断する。 ③新型コロナウイルス感染症の状況、新年度のクラス数等を考慮して、保護者対象の立居振舞講座の実施を検討する。
【中等部】資料	【資料10-1】学校公開 【資料10-2】保護者講座
【高等部】資料	【資料10-1】学校公開 【資料10-2】保護者講座
2023年度の取組目標	【中・高共通】 ①保護者に授業中の様子を知ってもらうために授業参観を実施し、参観者人数を120名以上にする。 ②生徒の活動の様子や成果を発表する場として、状況に合った適正な範囲で体育祭・合唱コンクール・みどり祭（文化祭）の3行事を保護者に公開する。 ③保護者へ学習の機会を提供するために、校内で立居振舞講座等の開催を検討する。

10-③	・生徒・保護者の中等部・高等部への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。また、教育相談体制を整備し、生徒・保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。
2022年度の取組目標	【中・高共通】 ①保護者の教育活動についての満足度や要望を把握するために、保護者との連絡を密に行う。また、保護者会、三者面談、校友会保護者会を適宜実施する。 ②生徒の悩み・要望・満足度などを把握し、生徒の学校生活がより良いものになるよう、アンケートを実施し、その内容に応じて二者面談を行う。 ③教育相談委員会を月例で実施することで、各学年の課題を学年、スクールカウンセラー、保健室で共有、連携して組織的、計画的に活動する。 ④教育相談への生徒の理解を深めるために、スクールカウンセラーによる中等部1年生、高等部1年生への全員面談を1学期中に実施する。
【中等部】達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の	【中・高共通】

理由 (目標に対する取組内容と成果)	①担任から保護者への連絡は密に行い、積極的にコミュニケーションを取るようにした。保護者会は各学年2回実施した。三者面談は全員に対して年2回、必要な生徒には年3回以上、各学期末に実施した。校友会保護者会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からほとんどの部活動で実施しなかった。 ②学校生活アンケートを各学期末の年3回実施し、その内容や分析結果をもとに指導を行った。 ③年8回教育相談委員会を実施し、学年内の生徒情報を共有するとともに、課題解決の提案を行った。 ④中等部1年生及び高等部1年生全員の面談を実施した。
今後の課題	【中・高共通】 ①保護者会は必要に応じて懇談会のような内容を盛り込み、保護者間の情報共有を進める。三者面談は、必要に応じて教員と保護者の二者で行う場面を設けることも検討する。 ②アンケートの活用方法について、職員に周知する機会を設ける。 ③迅速な対応を必要とする内容の共有手段を検討する。 ④入学後、早い時期に実施するようにする。
【中等部】 資料	【資料10-3】保護者会・面談
【高等部】 資料	【資料10-3】保護者会・面談
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①保護者の教育活動についての満足度や要望を把握するために、保護者との連絡を密に行う。また、保護者会、三者面談、校友会保護者会を適宜実施する。 ②生徒の悩み・要望・満足度などを把握し、生徒の学校生活がより良いものになるように、アンケートを実施し、その内容に応じて二者面談を行う。 ③教育相談委員会を月例で実施することで、各学年の課題を学年、スクールカウンセラー、保健室で共有、連携して組織的、計画的に活動する。 ④教育相談への生徒の理解を深めるために、スクールカウンセラーによる中等部1年生、高等部1年生への全員面談を、1学期中を目標に実施する。

10-④	・学校便りや学級便りの発行など、保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①保護者と学校との友好的な協力関係を築くために、印刷広報物（学園だより、学年だより、各種案内等）、web（学校ホームページ、一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）、Classi）を併用した学校広報活動に取り組む。 ②保護者に学校の様子や行事の実施についての理解を深めるため、保護者会や各種説明会等を中等部1年生～高等部2年生では年3回、高等部3年生では年2回開催する。また、保護者会の内容について情報共有を図るため、印刷物や「Classi」を効果的に活用する。

	③生徒の活躍を伝えるために、優秀な成績をあげた部活動等については、懸垂幕の掲示を行う。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①印刷広報物(学園だより、学年だより、各種案内等)の定期的発行、web(学校ホームページ、一斉メール配信システム(HAYABUSAメール)、Classi)の有効活用で、学校広報活動に取り組んだ。 ②新型コロナウイルス感染症の拡大状況に注意をしながら保護者を予定どおりに行った。進路やカリキュラムに関するガイダンス的な内容の回と懇談を中心とする回を各学年でもつことができた。参加できなかった保護者には印刷物で情報の共有化を図った。 ③業者に依頼し横断幕の掲示ができた。
今後の課題	【中・高共通】 ①学校ホームページの併用も検討する。 ②内容の共有化を「Classi」等で行えるようにする。高学年での参加率を向上させる。 ③適正な価格と納期で発注できるよう計画的に実施する。
【中等部】 資料	【資料10-4】保護者への情報発信
【高等部】 資料	【資料10-4】保護者への情報発信
2023年度の取組目標	【中・高共通】 ①保護者と学校との友好的な協力関係を築くために、印刷広報物(学園だより、学年だより、各種案内等)、web(学校ホームページ、一斉メール配信システム(HAYABUSAメール)、Classi)を併用した学校広報活動に取り組む。 ②保護者会の関心を高め、参加率を向上させる。 ③生徒の活躍を伝えるために、優秀な成績をあげた部活動等については、懸垂幕の掲示を行う。

10-⑤	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
2022年度の取組目標	【中・高共通】 ①地域のNPOや行政と、地域の自然、文化財、SDGsの取組みについて連携する。 【中等部】 ①「ESDプログラム」の一環として、1年生は鎌倉の自然保護、2年生は文化財保護、3年生は鎌倉の課題をテーマに学習する。

	②「ESDプログラム」の一環として、2年生は本郷台にある県立地球市民かながわぶらざで体験学習を実施する。 【高等部】 ①「ESDプログラム」の一環として、行政と連携して、鎌倉の観光の課題を解決するための方策を考える課題解決学習を実施する。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①鎌倉の自然、文化財、観光、SDGsについての学習において、鎌倉市役所や鎌倉ユネスコ協会の協力を得て、連携することができた。 【中等部】 ①1年生は由比ヶ浜海岸でのビーチコーミングを通して、海の豊かさや環境について学習した。2年生は、鎌倉国宝館で文化財を取り扱う体験を行った。3年生は、鎌倉の課題についてまとめ、鎌倉こども議会に参加して発表を行った。 ②2年生は県立地球市民かながわぶらざでの体験学習を行った。 【高等部】 ①1年生の3学期から、鎌倉の観光をテーマに課題解決学習に取り組んだ。鎌倉市観光課の職員を招聘し、鎌倉市の観光の課題について伺った。2年生では、引き続きグループごとに課題解決学習に取り組み、学年で発表会を実施し、鎌倉市の方にも見ていただいた。			
今後の課題	【中・高共通】 ①行政や地域のNPOとより一層連携を深め、地域をテーマとした学習を深化させる。 【中等部】 ①②新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮して体験学習を実施する。 【高等部】 ①鎌倉の観光をテーマに1年生3学期から始めた課題解決学習を、2年生になっても継続して取り組み、鎌倉市の自然や文化財保護などを含む観光の課題についての学習を続ける。			
【中等部】 資料	【資料10-5】 地域との連携・交流			
【高等部】 資料	【資料10-5】 地域との連携・交流			
2023年度の取組目標	【中・高共通】 ①行政や地域のNPOとの連携を深め、地域の自然、文化財、SDGsの取り組みについて、継続した学習に取り組み、深化させる。 【中等部】 ①ESDプログラムの一環として、1年生は鎌倉の自然保護、2年生は文化財保護、3年生は鎌倉の課題をテーマに学習する。 ②ESDプログラムの一環として、2年生は本郷台にある県立地球市民かながわぶらざで体験学習を実施する。			

	【高等部】 ①ESDプログラムの一環として、鎌倉市の協力を得ながら、鎌倉の観光の課題を解決するための課題解決学習を実施する。
--	--

11. 入試・広報活動（情報提供）

11-①	・ 中・高等部の教育活動について、説明会の実施、学校案内の配布、ホームページの活用など、多様な媒体を用いてわかりやすく、かつ適切な分量で提供されているか。また、生徒等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。			
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校ホームページに映像や魅力的な情報を載せ、他校との差別化を図る。 ②塾に加え、公立小・中学校へ配布される新聞媒体への広告を増やす。 ③新校舎の魅力を伝えるため、校舎見学や塾主催模試会場としての利用を積極的に行い、認知度を高める。 【中等部】 ①受験生・保護者対象の説明会に複数回参加してもらい、本校の教育内容等の理解を深められるよう、学校説明会の中身に変化をつける。 ②塾訪問のエリアを横浜西部・県央地区に広げ、多くの受験生・保護者に本校の情報を提供する。 【高等部】 ①受験生・保護者に本校の教育内容等を理解してもらうため、多くの外部イベントに参加し、学校説明会への誘導を行う。 ②公立中学校を通して多くの受験生・保護者に本校の情報を提供するために、中学校訪問のエリアを拡大する。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①新校舎の魅力を伝えるビデオや校舎のバーチャルツアーという新しいツールをホームページに載せ、滞在時間を増やす工夫をした。 ②公立小・中学校へ配布される新聞媒体に加え、私学の情報を伝える冊子にも広告を掲載した。 ③塾主催の模試会場として施設を貸し出す際に、保護者対象の講演会も同時に開催し、学校の認知度を高めるイベントを実施した。 【中等部】 ①説明会、体験授業や部活動親子、親子で解く過去問題解説会など複数回来校する機会を増やした。 ②横浜西部・県央地区に営業エリアを広げた結果、いずみ中央・二俣川・相模大野などからの入学者を獲得することができた。 【高等部】 ①パシフィコ横浜・明治学院大学・日本大学などで行われた外部の説明会に積極的に参加した結果、校内説明会に参加者してくれる受験生のエリアを広げることになった。 ②公立中学校訪問のエリアを広げるのと同時に、学校で配布してもらう学校案内とチラシを定期的に送ることで、学校の教員から進められて説明会に参加する生徒の数が増えた。			

今後の課題	【中・高共通】 ①雑誌等の広告によって学校説明会に参加した生徒・保護者の割合はおおむね5%以下であるため、インターネットによる広告に媒体を変更していく。 【中等部】 ①本校の魅力を多くの生徒に知ってもらうため、模擬試験会場の貸し出しにとどまらず、塾主催の私学フェアの会場として使用してもらえるよう積極的に誘致する。 ②適性検査型の受験生を増やすため、公立中高一貫校説明会等で、校門前でのリーフレット配布の回数を増やす 【高等部】 ①外部説明会への参加を更に増やし、受験生のエリア拡大を図る。
【中等部】 資料	【資料11-1】 学校説明会等参加者数 【資料11-2】 学校説明会等参加者数・出願者数 【資料11-3】 進学相談会面談者数 【資料11-4】 塾対象学校説明会参加塾数 【資料11-5】 学外での募集活動 【資料11-6】 学校案内送付数 【資料11-7】 塾訪問 【資料11-8】 ホームページアクセス数
【高等部】 資料	【資料11-1】 学校説明会等参加者数 【資料11-2】 学校説明会等参加者数・出願者数 【資料11-3】 進学相談会面談者数 【資料11-4】 塾対象学校説明会参加塾数 【資料11-5】 学外での募集活動 【資料11-6】 学校案内送付数 【資料11-7】 塾訪問 【資料11-8】 ホームページアクセス数
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①インターネット出願を導入することにより、多くの受験生を動員する。 ②一度に多くの受験生が集う外部説明会の参加数を増やし、多くの受験生を学校説明会に動員する。 【中等部】 ①横浜市立型と神奈川県立型の適性検査を用意して、模試感覚で受験してもらえよう塾訪問を通じて適性検査型入試の認知度を高める。 【高等部】 ①併願での受験生の歩留まりが読めないため、推薦・専願による受験生を増やせるよう、説明会での内容を中学生の目を惹くものに変える。

11-②	・入学試験を公正かつ適切に行っているとともに、入学定員及び収容定員に沿って在籍生徒を適切に確保しているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①相鉄線の延長にともない、東京への私学も行きやすくなることから、通学エリアの拡大を見込み営業エリアを広げる。 ②採点効率を上げられるような作問の工夫を行う。 【中等部】

	① コロナ禍でも対面での説明会を実施できるよう、新型コロナウイルス感染症対策を徹底的に行い、学校内外で説明会の実施数を増やし、新コースと新校舎をアピールする。 【高等部】 ① 説明会への参加数が1回程度の高等部は、学校の魅力が1時間で伝わる工夫をする。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ① コロナ禍ではあったが、本年度は大規模会場での説明会が実施できたため、広範囲から受験生を獲得することができた。 ② 中等部も高等部も迅速に採点できる問題が多く、判定会議の開始に影響を与えることはなかった。 【中等部】 ① 悪天候による説明会の中止がなかったため、計画どおり学校説明会を実施することができた。また、模試と講演会をパックにした模試会場の貸し出しを行ったことで、受験生を増やすことができた。 【高等部】 ① 高等部の説明会を午前と午後の2回実施に変えたことで、コロナによる人数制限をかけても、来校者を増やすことができた。			
今後の課題	【中・高共通】 ① インターネット出願を導入することにより、手軽に受験の申し込みができるようにする。 ② 入学試験問題は受験生と学校との大事な接点であるため、採点しやすい問題と思考力をみる問題のバランスを、今後の受験者増に備え検討していく。 【中等部】 ① 適性検査型入試は鎌倉女子大中等部が他の学校よりも本番の力が図れるという評判が作れるよう、出題等のねらいについて学校説明会を通じて生徒・保護者に伝えていく。 【高等部】 ① 書類選考による併願の受験生の増加を図りながら、新校舎の魅力に加え、特待生制度などの学費免除のアピールをわかりやすく行う。			
【中等部】 資料	【資料11-9】 2023年度入試 【資料11-11】 入学試験関連スケジュール		【資料11-10】 入試状況	
【高等部】 資料	【資料11-9】 2023年度入学試験 【資料11-11】 入学試験関連スケジュール		【資料11-10】 入試状況	
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ① インターネット出願がスムーズに導入できるように準備をする。 ② 思考力を問いながら採点しやすい問題を出題していく。 【中等部】			

	①出願の仕方が分かりやすい募集要項を作成する。 【高等部】 ①就学支援金制度や特待生制度の認知を高める。
--	---

11-③	・中等部・高等部の募集力向上における支援が適切に行われているか。			
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①引き続き中・高等部の募集業務補佐と、支援の更なる充実を行う。 ②募集人員充足に向け、説明会や公開行事等の運営支援や、電話・受付窓口等での入学希望者対応の充実を行う。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、みどり祭（文化祭）等の公開行事は時間や人数の制限を設定し行われた。行事の様子は中・高等部のホームページで受験生に紹介され、広報の一つとして扱われている。学校説明会についても新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながらこれまで同様に実施され、毎回来校者の案内等運営補助を行っている。 ・各種問い合わせに関する電話や窓口対応については、丁寧な対応を心掛け、中・高等部の好感度を上げる様尽力した。 ・募集要項については、受験希望者にとって内容が分かりやすくなる様なレイアウトや表現を取り入れ工夫した。 【高等部】 ・事務の合理化と新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、一昨年度より入学試験の出願方法をこれまでの窓口受付から郵送受付のみに変更した。			
今後の課題	【中・高共通】 ・併設校広報の中心である初等・中等教育統括部長や中・高等部管理者との連携を密にし、中・高等部の募集活動の支援充実に努めたい。令和5（2023）年度から中等部の出願方法をWebで行う方式に変更する予定のため、事務処理に支障がない様努める。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ・引き続き中・高等部の募集業務補佐と、支援の更なる充実を行う。 ・募集人員充足に向け、説明会や公開行事等の運営支援や、電話・受付窓口等での入学希望者対応の充実を行う。			

12. 教育環境整備

12-①	・多様な学習内容・学習形態などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①音楽室、美術・工芸室、書道室、情報処理演習室、調理実習室、家庭科室（被服）、物理・地学室、化学室、生物室など各特別教室を有効活用する。 ②各教室に設置された電子黒板や生徒全員が持っているタブレット端末等の機器を活用した授業を行う。 ③ラーニングコモンズ等の有効活用を推進するため、新校舎運営員会で組織的に取り組む。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	【中・高共通】 ①理科について、化学室と生物室では実験・観察を中心に、物理では、机の配置を生かした座学など、各実験室を有効に活用することができた。実験室の使用が重なった際には3教室をやりくりして使用した。 ②各授業において有効に活用することができ、学習内容の理解へとつなげることができた ③国語科では、アクティブラーニングの活動で「ビブリオバトル」や「ポスターセッション」などに利用した。LHR・総合学習の時間等で「SDGsプログラム」「人権学習プログラム」の活動のときに、グループワークの会場として利用した。
今後の課題	【中・高共通】 ①理科 新実験室では施設・設備に不備はないが、実験器具類の経年劣化による安全性に留意している。使用しづらいものは順次、更新している。 ②教員用タブレットの経年劣化が見られるため、順次更新を検討する。 ③ラーニングコモンズの活用方法について検討する。
【中等部】 資料	【資料12-1】施設・設備
【高等部】 資料	【資料12-1】施設・設備
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①理科について、化学室と生物室では実験・観察を中心に、物理では、机の配置を生かした座学など、各実験室を有効に活用する ②各教室に設置された電子黒板や生徒が所持しているタブレット等のICT機器を活用した授業を行う。 ③ラーニングコモンズ等の有効活用を推進するため、新校舎運営員会で組織的に取り組む。

12-②	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ・施設・設備の安全確保、機能維持のため、日常点検・巡回の実施。 ・業者委託業務による計画的な環境整備。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対 する取組内 容と成果)	【中・高共通】 ・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。 ・職員の日常作業の他、消防設備、清掃業務、樹木管理、プールの保守点検など業者への委託による環境整備・安全確保等も行った。 ・建物管理業務を令和3（2021）年8月から業者委託し、より快適な環境整備を行った。 ・創立80周年記念事業について、西館改修工事において、工事エリアを仮囲いで区画し、生徒の安全を確保した。 ・中等部・高等部グラウンド照明のため、照明器具を校舎屋上に設置した。 ・プール棟において、プール保守点検の他、良好な維持管理のため、熱交換器プレート更新工事、塩素滅菌機交換工事、コンプレッサー交換工事等を行った。 ・松本講堂において、冷暖房を管理する冷温水発生機を前回分解整備から15年経過したためオーバーホール工事を行った。また舞台上の音響反射板を撤去し、音響反射幕を設置した。 ・台風等災害被害の安全対策工事として、総合グラウンド南側境界沿いイチョウ並木の高木剪定を行った。 ・衛生管理の強化（新型コロナウイルス感染症等の予防を含む）のため、生徒が担当していたトイレ清掃を令和2（2020）年から業者委託とした。 ・設備機器の不具合への対応を行った。
今後の課題	【中・高共通】 ・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。 ・委託業務の内容などが実情に合わせたものになるよう計画する。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ・施設・設備の安全確保、機能維持のため、日常点検・巡回の実施。 ・業者委託業務による計画的な環境整備。

12-③	・教材・教具・図書の整備や学校教育の情報化が適切になされているか。
2022年度の	【中・高共通】

取組目標	①必要となる教材・教具・図書を計画的に整備する。 ②タブレット・パソコン・電子黒板などを利用する授業などをほぼすべての教員が実施できるように、技術を共有できる環境づくりを行う。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①授業で必要となる、教材等を計画的に準備し、整備することができた。 また、転入生の教科書を、滞りなく準備した。 ②電子黒板やタブレットを活用した授業を展開できた。			
今後の課題	【中・高共通】 ①必要となる教材・教具・図書を計画的に整備する。 ②技術を共有する場を増やし、全教員が活用できるようにする。			
【中等部】 資料	【資料12-2】図書室蔵書数・視聴覚資料数 【資料12-3】図書閲覧室等 【資料12-4】図書室利用			
【高等部】 資料	【資料12-2】図書室蔵書数・視聴覚資料数 【資料12-3】図書閲覧室等 【資料12-4】図書室利用			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学習指導要領の年次進行改訂に伴い、必要となる教材・教具・図書を計画的に整備する。 ②電子黒板やタブレット、パソコン等のICT機器を授業で積極的に活用できるよう、活用方法の共有や蓄積を行う。			

13. 事務支援体制

13-①	・ 中・高等部の教育活動における支援が適切に行われているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ・ 日常業務における事務支援体制全体の強化を引き続き図る。 ・ 中・高等部校舎の移転に伴う業務を引き続き円滑に行う。 ・ 校納金の収納等会計処理を適正に実施する。
【中等部】 達成状況	A : 十分達成 B : 概ね達成 C : やや未達成 D : 未達成
【高等部】 達成状況	A : 十分達成 B : 概ね達成 C : やや未達成 D : 未達成
達成状況の 理由 (目標に対 する取組内 容と成果)	【中・高共通】 ・ 窓口での来校者や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。 ・ 業者支払や預り金についての伝票を引き続き初等・中等教育支援室で作成し、事務処理の合理化を進めることができた。 ・ 預り金管理業務についても、各学年の担当者と連携し適正に行われている。 ・ 新入生の制服採寸において、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため三密（密閉・密集・密接）を避けるべく、人数を時間ごとに制限しながら実施するなどの対応を図り、問題なく行うことができた。 ・ 補助金申請業務に関しては、提出期日を超過してしまった事例があり、関係部署と相談の上修正を行った。
今後の課題	【中・高共通】 ・ 今後も窓口や電話での対応に関して、適切かつ丁寧な対応を心掛ける。 ・ 令和3（2021）度夏より中・高等部校舎が南グラウンド敷地内に移転したが、支障なくこれまでどおり事務支援の円滑な実施ができるよう尽力する。 ・ 補助金の事務については、担当者の理解深耕、複数名での確認作業の徹底、管理者の適切な管理を強固に推進する。
【中等部】 資料	【資料13-1】 授業料等校納金 【資料13-2】 生徒一人当たり年間納付金 【資料13-3】 学費軽減制度
【高等部】 資料	【資料13-1】 授業料等校納金 【資料13-2】 生徒一人当たり年間納付金 【資料13-3】 学費軽減制度
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ・ 日常業務における事務支援体制全体の強化を引き続き図る。 ・ 中・高等部校舎の移転に伴う業務を引き続き円滑に行う。 【高等部】 ・ 就学支援金等補助金に伴う受付申請業務を遅滞なく正確に行う。

14. 自己点検・評価

14-①	・自己点検・評価が年に1回以上定期的に、全教職員が関与し、組織的に実施されているか。また、自己点検・評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①全教職員が自己点検・評価の結果を共有し、改善に向けて共通理解を深めるために、学校評価委員会を中心に組織的・計画的に取り組む。 ②自己点検・評価の結果を学校の教育活動・学校運営に反映させるために、すべての校務委員会、担当者会は評価指標と目標を適切に設定する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①「学校評価プラン」に基づき、学校評価委員会が「自己点検・評価報告書作成計画」を策定して、組織的・計画的に取り組むことができた。 ②前年度の相互評価の指摘事項を全教職員で共有し、各項目の担当部署を明確にし、各委員会、各担当者会は評価指標に基づいて自己評価した。
今後の課題	【中・高共通】 ①学校評価委員会は「自己点検・評価報告書作成計画」を2学期中に策定、早めに全教職員に周知し、改善を図れるようにする。 ②すべての校務委員会、担当者会は本年度設定した評価指標と目標が適切であったかを検討し、改善する。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①全教職員が自己点検・評価の結果を共有し、改善に向けて共通理解を深めるために、学校評価委員会を中心に組織的・計画的に取り組む。 ②自己点検・評価の結果を学校の教育活動・学校運営に反映させるために、すべての校務委員会、担当者会は評価指標と目標を適切に設定する。